

VI 智恵の「都」をつくる

～すべての県民が、生涯良く学び続けられ、
奈良の歴史文化に親しめる地域をつくる～

18. 教育の振興

- (66) (仮称)奈良県立工科大学の設置推進、奈良県立大学の教育充実
- (67) 県立医大教育の充実 県立医大教育将来像の深化
- (68) 県と大学との連携強化
- (69) 高校生年代の学びとはぐくみ
- (70) 私学の振興
- (71) 教育ICTの推進
- (72) 第2期奈良県教育振興大綱の推進

19. 文化の振興

- (73) 文化の振興
- (74) 文化観光推進・歴史追体験
なら記紀・万葉プロジェクトの継続展開
- (75) 文化財の保存と活用
- (76) 飛鳥・藤原の世界遺産登録
- (77) なら歴史芸術文化村の活用

20. 海外との交流展開

- (78) 国際交流の強化・拡大と東アジア地方政府会合の充実発展

18. 教育の振興

(66) (仮称)奈良県立工科大学の設置推進、奈良県立大学の教育充実

ここまで良くなってきました

(仮称)奈良県立工科大学の設置に向けた検討を開始しました。

- R4年1月に有識者会議を立ち上げ、計4回にわたり専門家から意見聴取
- R4年11月から、具体的な研究・教育分野等の検討を開始



有識者による検討の様子

奈良県立大学の教育環境の充実を進めています。

- クラブハウスの整備、(仮称)教育研究棟の設計を開始
- R4年4月 奈良県立大学附属高等学校 開校



県立大学附属高等学校 第1回入学式

もっと良くするために

(仮称)奈良県立工科大学の設置に向けた検討を推進します。

- 有識者の意見を踏まえ、研究・教育分野、教員組織体制、教員確保等の検討
- 地域社会の教育ニーズや、企業等の人材確保及び技術支援に関するニーズの調査
- 県内の既存施設等を活用し、大学院のキャンパス候補地の確保
- ※R8年度を目途に大学院を先行設置し、三宅町に整備予定の新キャンパスにおいて学部を併設(R13年度目途)



<イメージ>
三宅町に整備予定の新キャンパス

奈良県立大学の教育環境及び高大接続の充実を進めます。

- 奈良県立大学で様々な業務運営を実施
 - ・少人数対話型教育(コモンズ制)により、地域に貢献できる優れた人材を育成
 - ・R7年度からの附属高校特別推薦生の受入を見据えた教育体制の検討
- 県立大学及び附属高等学校の就学支援
- クラブハウスや(仮称)教育研究棟の施設整備



クラブハウス



(仮称)教育研究棟

令和5年度予算案 1,081百万円

(67) 県立医大教育の充実 県立医大教育将来像の深化

ここまで良くなってきました

令和元年度から6年間の第3期中期目標・中期計画を定め、**医大の改革**をさらに進めてきています。

奈良県立医科大学の将来像(教育分野の理念)

豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成

(医大への期待) 高度医療、急性期医療から慢性疾患に対応

○最高の医学と最善の医療を行う「良き医療人」を育成（「心・知・技」を併せ持つ人材を育成）

○県内基幹病院として、地域医療の充実へ貢献

高度医療	<ul style="list-style-type: none"> ・高度医療における患者の理解と、自己選択を促すコミュニケーションを習得する学習 ・臨床研究中核病院の認定取得 ・質の高いがん治療実施比率の向上
急性期医療	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期医療における患者の理解と受容を促すコミュニケーションを習得する学習 ・特定行為研修を修了した看護師数の増加 ・ER型救急医療体制の確立 ・災害医療チームの育成
慢性疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・患者に寄り添うコミュニケーション学習 ・特定行為研修を修了した看護師数の増加 ・総合診療科に在宅医療部門設立



高度医療の提供



救急医療を担う医大のヘリポート



看護実習

もっと良くするために

第3期中期目標・中期計画の進捗管理を行い、第3期中期目標達成に向けた**取組・運営に対する支援**を行うとともに、第4期中期目標の策定に向け検討を進めます。

○県による第3期中期目標・中期計画の進捗管理

「医大の将来像実現推進会議」を年に複数回開催し、県立医科大学のPDCAマネジメントサイクルを推進

○第3期中期目標達成に向けた取組と運営に対する支援

県立医科大学の第3期中期目標達成に向けた取組と大学・病院の運営に要する経費に対し、運営費交付金及び中期目標達成促進補助金等を交付

【運営費交付金】

医師・看護師の養成等業務運営に必要な経費の財源に充てるため、県立医科大学に対し運営費交付金を交付

【中期目標達成促進補助金】

第3期中期目標の達成に向け、県が重点的に促進する県立医科大学の取組に対し補助（主な対象経費）・心の教育を実現するための講座（「医師・患者関係学講座」）の運営経費
・奈良学・在宅医療学の運営経費 等

○第4期中期目標の策定に向けた検討

県立医科大学の第4期中期目標策定に向け、第3期中期目標の実績分析等を実施

令和5年度予算案 5,313百万円



(68) 県と大学との連携強化

ここまで良くなってきました

令和4年6月に奈良先端科学技術大学院大学との包括連携に関する基本協定を締結しました。



奈良先端科学技術大学院大学との協定締結

大学との連携を進めており、令和6年度に100件にするという目標に対し、令和4年度は県全体で大学との連携事業数は86件となりました。

○早稲田大学(H20～)及び近畿大学(H28～)とは、包括的な連携協定に基づき、今までに72件の事業を実施

○奈良県版シュタットベルケ創生に向けた可能性検討事業

○奈良っ子食育プロジェクト



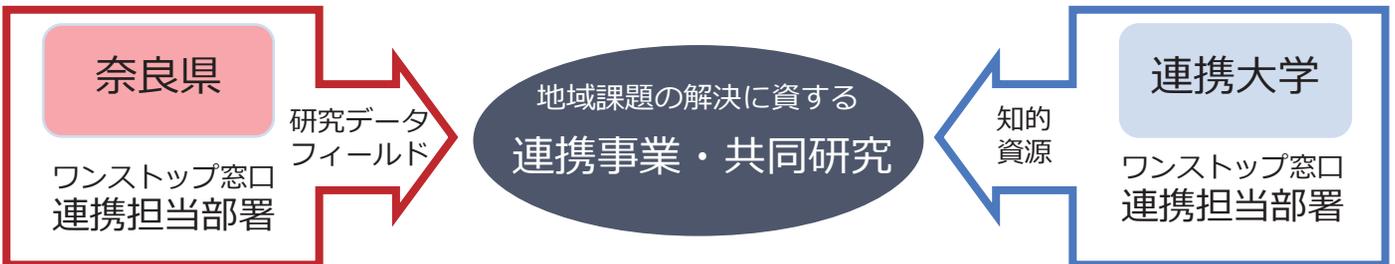
昆布だしについて学ぶ



勉強会(早稲田+磯城郡3町)

もっと良くするために

大学の高度な知的資源を活用し、県政の様々な課題への対応策を検討・実施するため、早稲田大学・近畿大学・奈良先端科学技術大学院大学と連携した事業を展開します。



○なら歴史芸術文化村幼児向けプログラムと連動した食育プログラム事業



親子食育プログラム

○デジタルデバインド対策事業



プログラミング教室

○奈良式柿タンニンの品質安定化・評価技術の開発



柿タンニン粉末

奈良県教育振興大綱を推進するため、県内の国公立大学・短期大学への研究や私立専修学校の地域と連携した取組への支援を行います。

令和5年度予算案 53百万円

(69) 高校生年代の学びとはぐくみ

ここまで良くなってきました

特色ある学校の創出と、学職接続を意識したキャリア教育の充実を図ってきました。

- R2年度：奈良北高校数理情報科
奈良先端科学技術大学院大学との連携協定に基づく取組の拡大
- R3年度：奈良商工高校、高円芸術高校、商業高校、奈良南高校が開校
芸術や実業・起業家教育の充実
- R4年度：宇陀高校が開校
福祉・情報教育の充実



宇陀高校専攻科実習

- 高校2年生を対象とした合同企業説明会の開催
- 県内高校生を対象にスタートアッププロジェクト事業の実施
- 県内高校でインターンシップコーディネーター等の継続配置、推進校・受入企業の拡大

地域社会で即戦力となる職業人材の育成等、実学教育の充実に取り組んできました。

○「専攻科」の設置

- 宇陀高校：介護福祉士、奈良県版ラヒホイタヤの育成
- 奈良南高校：2級建築士、2級土木施工管理技士、測量士補の育成



関西電力(株)による現場実習

- 企業と連携した人材育成プログラムを実施
- 企業実習を通して、知識や技術を身に付ける「奈良県版デュアルシステム」を実施

もっと良くするために

奈良で「学んで良し、働いて良し」を実現するため、高校生年代への包摂的な教育・支援施策を検討します。

- 進路選択を支える教育・支援施策の連携・充実
- 高校生年代を受け入れる学校等の多様化
- 中途退学や進路未決定者への支援
- 「学と職の接続・往還」の機能強化を図るため、実学教育を推進
- デジタル化が進んだ未来の社会を生き抜くための資質の育成



商業高校情報ビジネス科実習

地域社会との連携を核とした人材育成の推進、実学教育の充実、「魅力と活力あるこれからの高校づくり」、キャリア教育の総合的な支援に引き続き取り組みます。

- R5年度に宇陀高校 専攻科にラヒホイタヤ科(総合福祉科)を新設
- R5年度に国際中学校開校
- 高校2年生を対象とした合同企業説明会の継続開催
- 県内高校生を対象としたスタートアッププロジェクト事業の継続開催



宇陀高校専攻科実習



スタートアッププロジェクト演習

令和5年度予算案 6,158百万円 令和4年度2月補正予算案 54百万円

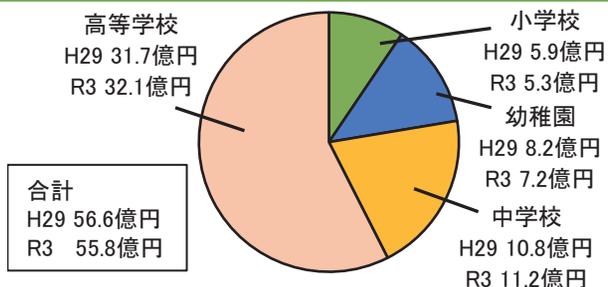
(70) 私学の振興

ここまで良くなってきました

本県では私立学校の運営費に対し補助を行ってきました。私学教育の質の向上のため「政策推進助成制度(学校提案型加算、政策推進加算)」を導入し、特色のある取組に対し加算を行っています。

- 学校提案型加算…特色ある取組を学校が提案し、審査委員会で採択された場合に加算
- 政策推進加算…県が私学に求める項目について、具体的な取組を実施した場合に加算

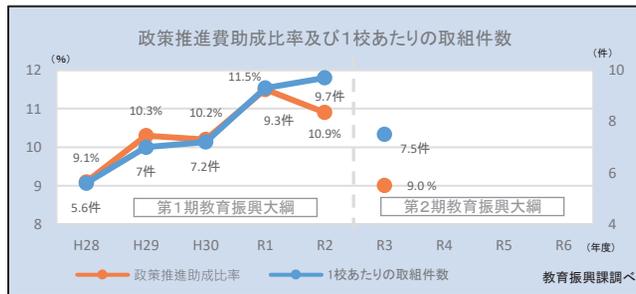
各学校の生徒数や教職員数等に基づく運営費補助の割合



令和3年度より第2期教育振興大綱に合わせ、政策推進加算項目を見直しています。



※ R2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、学校提案型加算を中止

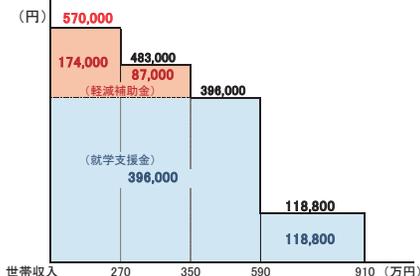


政策推進助成比率(%) = 政策推進助成額(円) / 私学経常費補助金(円)

もっと良くするために

運営費補助や授業料等の軽減補助等の活用により、私学の教育の質の向上を図ります。

- 公教育の一翼を担う私立学校に対し、教育条件の維持向上や、学校経営の健全性の向上を図るため、経常的な経費に対して補助(経常費補助)
- 家庭の経済事情のために私立学校への進学を諦めることのないよう、学費負担者に対して授業料等を補助(R5年度より家計急変世帯も対象)



- その他、心身障害児の受入支援やスクールカウンセラーの配置支援等、様々な補助制度を活用

第2期教育振興大綱を推進するため、政策推進助成は引き続き、10%程度を維持し、取組件数の増加、取組内容の充実を図ります。

- 政策推進加算項目のうち、就学前教育における体験活動や国際化教育の取組等を重点項目に設定、私立学校に周知し推進
- 事例紹介や取組内容の事前相談を実施



オンライン国際交流

令和5年度予算案 9,699百万円

(71) 教育ICTの推進

ここまで良くなってきました

「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」において、**教員のICT活用指導力の状況の結果が、令和元年度以降大きく改善しました。**



※いずれのグラフも活用・指導できる、ややできると回答した教員の割合(%)

県域で包括的な教育ICT環境の改善

継続したICT活用指導力向上の取組

- GIGAスクール運営支援センターを設置し、教員のICT活用を促進する環境を整備
- 県立学校の学びの質的転換を図るため、BYODによる1人1台端末と、電子黒板の活用を推進
- 教育の情報化を進める教員を育成するため、8回のオンライン研修を実施

もっと良くするために

本県の教育課題の解決を図るため、クラウドベースの情報通信技術を導入し、活用することで、**教育DXを推進**します。

県と市町村で連携した事業展開

- GIGAスクール構想推進協議会の運営
⇒**端末の共同調達**や**情報交換**をします
- GIGAスクール運営支援センターの活用
⇒**ヘルプデスク**や**アカウント管理**をします

ICTを活用した教育の充実

- 電子黒板を活用した授業の実施
⇒**双方向型の授業**に転換します



情報教育の充実と教員のICT活用指導力の向上

- 未来を生き抜く学びの改革
- 県立高校における情報科の学習環境整備
⇒**教科「情報」の指導充実**を図ります

教育情報の電子化

- 県立学校校務用端末、校務支援システムの更新(保護者連携強化)
- 奈良県域統合型校務支援システムの市町村立学校への導入を支援
⇒**業務を軽減し、教員の働き方改革**を進めます



■ R4年までに導入
■ R5年導入(予定)

ICT機器等の維持管理 クラウドを活用したネットワーク整備・運用

- 県立学校教育用端末等の保守・管理・整備
- 県立学校インターネット回線の運用
⇒**クラウドを活用**した高速の回線を整備します

令和5年度予算案 154百万円
令和4年度2月補正予算案 370百万円

(72) 第2期奈良県教育振興大綱の推進

ここまで良くなってきました

県の教育の振興に関する総合的な施策の大綱を定めた、「第2期奈良県教育振興大綱」(令和3年3月策定)を推進しています。

【教育施策の基本方針】

1. 心と身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ
4. 地域と協働して活躍する人を育てる
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる

奈良県教育が目指す方向性を「本人のための教育」とし、一人ひとりの「学ぶ力」「生きる力」をはぐくむ本人のための教育を行います。

「学ぶ力」をはぐくむ

「生きる力」をはぐくむ



もっと良くなるために

奈良県教育振興大綱に沿った取組を推進するため、**評価指標に基づく検証**を行います。

- 知事と教育委員会が教育施策に関する課題の共有や、解決策について協議



奈良県総合教育会議

具体的な教育施策の実効性を高めるため、**県と市町村が協働して教育施策を推進**します。

- 県と市町村が教育課題について情報等を共有



奈良県教育サミット

教育施策や県内学校の教育活動について、**家庭や地域社会に広く発信し、学校・家庭・地域社会の連携をより一層推進**します。

- 教育に関わる、学校・家庭・地域社会の対話のツールとして、「奈良県教育ジャーナル」を発刊

令和5年度予算案 4百万円

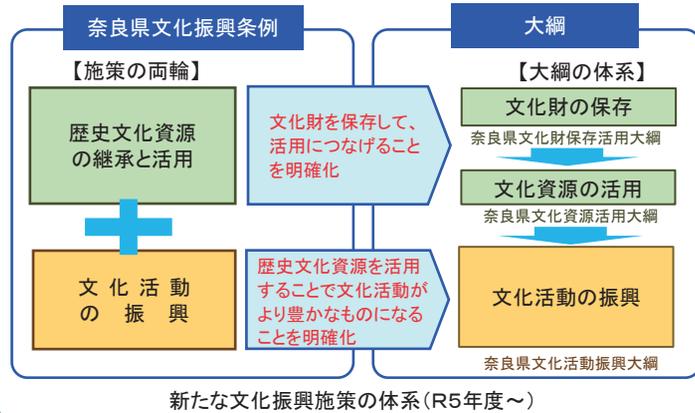
19. 文化の振興

(73) 文化の振興

ここまで良くなってきました

奈良県文化振興条例(令和3年4月施行)を基に、奈良県文化振興大綱の改定に取り組んできました。

令和4年2月、JNOと連携協定を締結し、本県における上質な音楽の裾野を広げる取組を展開しています。



JNO(反田恭平氏が代表を務めるジャパン・ナショナル・オーケストラ株式会社)との連携協定締結

もっと良くするために

「音楽の都」奈良県 ～四季を問わず、まち中が音楽で溢れる奈良県～ を目指します。

○四季を通じたミュージックフェストなら



第10回記念公演の様子



未来の演奏家の育成



音楽を活用した奈良の魅力発信



年末コンサート

○子どもを音楽で育てる取組



子どもを音楽で育てる演奏会



ヴァイオリン等を活用した音楽プログラム



県立ジュニアオーケストラ

○文化会館のリニューアル



文化会館整備のイメージ

奈良県文化活動振興大綱(令和5年3月改定予定)等に基づき、文化振興を進めます。



美術館開館50周年記念特別展



奈良県みんなでののしむ大芸術祭



文化活動継続への支援

令和5年度予算案 295百万円 [債務負担行為 15,683百万円]

(74) 文化観光推進・歴史追体験 なら記紀・万葉プロジェクトの継続展開

ここまで良くなってきました

日本博のスキームを通して、奈良県の歴史文化資源の魅力を全国に発信し、良質な誘客、周遊を推進してきました。

○古代の都再現・復元プロジェクト

- ・秋季特別展「宮廷苑池の誕生」講演会
- ・発掘調査映像公開



民俗博物館古民家修理現場公開

2019年に欧州、2022年に中国清華大学にて展覧会を開催し、奈良の歴史文化の魅力を海外に発信しました。



ギメ東洋美術館



大英博物館



清華大学芸術博物館

歴史的な記念年等に合わせ歴史文化資源活用の主要テーマを設定し、多彩な事業展開により、多くの方に「記紀・万葉」になじみを持っていただきました。

○これまでの主要テーマ

- 2012年 古事記完成 1300年
- 2020年 日本書紀完成 1300年
- 藤原不比等没後 1300年
- 2021年 聖徳太子没後1400年
- 2022年 壬申の乱 1350年



なら記紀・万葉名所図会 壬申の乱編

○これまでの主な事業

- ・講演会
- ・ウォークイベント
- ・冊子制作



壬申の乱1350年講演会

もっと良くするために

「文化資源活用大綱」に基づき、奈良県の歴史文化資源の活用を推進します。

○有識者の意見を基に、県内外をはじめ、国外の方にも「歴史文化資源」の本質的価値が分かるストーリーを発信

「“奈良”を辿り、“日本”を知る」をテーマに、本県が持つ歴史文化資源の魅力を発信し、誘客、周遊を促進します。

- 講演会や体験イベントの開催
- 映像制作、発掘現場公開



飛鳥宮跡発掘現場公開

海外での次期展覧会の開催に向け、歴史文化資源の国際展開の検討を進めます。

- 中国清華大学との交換展（奈良県内開催）等の検討



清華大学芸術博物館

文化施設を活用し、文化観光を推進します。

- 県全域で文化観光拠点施設や世界遺産等を活用した事業を展開し、地域活性化を推進

歴史文化資源との対話を通じ、歴史文化、その成立過程や時代背景などを、幅広く考えて感じていただく取組を充実していきます。

R5年以降の歴史テーマ

- 2023年 天武・持統天皇とその時代（天武天皇即位1350年）
- 2024年 天武・持統天皇とその時代（藤原京遷都1330年）
- 2025年 「飛鳥・藤原」世界遺産登録



天武・持統天皇とその時代事業を展開します。

- 歴史テーマを題材に、講演会やイベントを開催
- SNSやHPを活用した広報



落語で見る壬申の乱

令和5年度予算案 124百万円

(75) 文化財の保存と活用

ここまで良くなってきました

「奈良県文化財保存活用大綱」に基づき、文化財の保存と活用の取組を進めました。

- 国指定及び県指定文化財等の保存、修理、買収等に関する補助
- 史跡太安萬侶墓の整備に向けた保存活用計画策定（R5年3月予定）
- 各府県に伝承されている民俗芸能を広く公開する「第64回近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会」を開催（R4年12月）



第64回近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会

「奈良県文化財防火対策推進条例」に基づき、文化財防災の取組を進めました。

- 防犯・防火・防災関係者連絡会議（R4年8月）
- 防災施設等の整備や防災設備の点検等に対する補助

もっと良くするために

文化財の保存と活用の取組を推進します。

- 国指定及び県指定文化財等の保存、修理、買収等の補助



国宝東大寺二月堂

- 登大路瓦窯跡を公開し活用していくための整備基本計画の策定



登大路瓦窯跡
(上から撮影)

登大路瓦窯跡

- 国指定及び県指定文化財に関するデータベースの作成

未指定文化財の調査を推進します。

- 文化財の指定に向けた大型彫刻の調査
- 県内の古文書の所在と内容を把握するための調査



古文書の調査

文化財防災の取組を推進します。

- 文化財防災対策の構築



文化財防犯・防火・防災関係者連絡会議

- 防災施設等整備・防災設備点検等への支援

令和5年度予算案 768百万円 [債務負担行為5百万円]
令和4年度2月補正予算案 27百万円

(76) 飛鳥・藤原の世界遺産登録

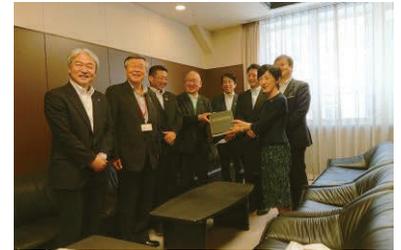
ここまで良くなりました

平成19年に「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」が世界遺産暫定一覧表に記載されました。

- 世界遺産登録に向けて必要な資産価値の証明、保護措置の整備、普及啓発活動などを推進

推薦書(素案)の提出

- ・R2年、R3年に引き続き、R4年6月に文化庁へ推薦書(素案)を提出
- ・文化審議会世界文化遺産部会での審議、課題の提示などを受け、推薦書(素案)をブラッシュアップ



文化庁へ推薦書素案提出

普及啓発活動の取組

- 世界遺産としての価値の理解促進、登録への機運醸成
- ・首都圏、県内などで講演会を開催
- ・世界遺産ジャーナルの発行



東京でのフォーラム開催

もっと良くするために

「飛鳥・藤原」の本質的価値をストーリーとしてまとめ、令和7年の世界遺産登録を目指します。

推薦・登録の準備

- ・国内推薦決定を目指し、R5年3月に推薦書(素案)を提出
- ・正式推薦に必要な推薦書の修正、さらなる資産の保護、課題の解決

構成資産の整備

- ・主要構成資産である飛鳥宮跡の暫定整備
- ・飛鳥宮跡と飛鳥京跡苑池の発掘調査、史跡・景観整備



飛鳥宮跡



飛鳥京跡苑池

登録へ向けた普及啓発の継続

- 県内外でのさらなる機運醸成
- ・橿原市・桜井市・明日香村と連携し、首都圏および県内で普及啓発のイベントなどを開催
- ・世界遺産ジャーナルを引き続き発行
- ・「飛鳥・藤原」の価値をストーリーとしてまとめ、映像で分かりやすく配信



映像での普及啓発

登録までの最短スケジュール

- | | |
|--------|-------------|
| R5年12月 | 国内推薦決定 |
| R6年2月 | 推薦書をユネスコへ提出 |
| R6年9月 | イコモス現地調査 |
| R7年5月 | イコモス勧告 |
| R7年7月 | 登録審議・登録 |

令和5年度予算案 124百万円

(77) なら歴史芸術文化村の活用

ここまで良くなりました

なら歴史芸術文化村は、令和4年3月の開村以来、歴史・芸術分野の体験プログラム等が好評であることに加え、「道の駅」のにぎわい等により、連日、多くの方に来訪いただいています。



もっと良くするために

歴史文化資源を活用した対話重視の体験や、子ども達の自尊心、利他心を養うことにつながる創作活動の場となるような取組を積極的に展開します。また、文化村を核としたにぎわいが広く波及するよう、周辺地域を一体として捉えた取組を展開します。

○歴史文化資源の継承と活用

- 文化財修復作業の公開・解説



文化財の修復工房



学芸員による解説ツアー

- 文化財に親しむための企画展、体験プログラムの実施（仏像制作体験、企業との連携による体験コーナー）



体験プログラム

○芸術文化活動の振興

- 幼児向けアート・音楽プログラムの展開



子ども参加型音楽コンサート

- 幼児向けアートプログラムの地域展開のための人材育成

- 「NARA」をテーマにしたアート表現を世界から募集・発信



アート作品の展示

- 文化村スタッフとアーティストの協働による作品の制作・展示

地域のにぎわいと活力を創出する施設となるよう、なら歴史芸術文化村の活用を図るとともに、来村者の声に耳を傾け、おもてなしの向上を図ります。

○にぎわいの創出とおもてなしの向上

- 観光・産業等の分野との連携



食と農の情報発信セミナー

- にぎわいイベントの開催



駐車場を活用したイベント開催

- おもてなしの向上



植栽による彩り空間創出のイメージ

令和5年度予算案 718百万円

20. 海外との交流展開

(78) 国際交流の強化・拡大と東アジア地方政府会合の充実発展

ここまで良くなってきました

お互いに学び合う姿勢で国際交流を続けてきています。

○多くの海外地方政府と友好提携を締結

中国・陝西省(H23年9月)、韓国・忠清南道(H23年10月)、スイス・ベルン州(H27年4月)、ウズベキスタン・サマルカンド州(R3年12月)



サマルカンド州との協定書署名式 (R3年12月)



スイス・リース林業教育センターとの交流 (R4年10月)

○中国・清華大学と覚書を締結(R元年8月)、NAFICとスペイン・バスク州の料理専門大学BCCと連携協定を締結(R4年12月)



清華大学芸術博物館における展覧会 (R4年9月～12月)

東アジア地方政府会合を2010年に設立し、地方政府が共通する課題について、学び合い、交流を深めてきました。

○会員は設立時の6カ国40地方政府から7カ国75地方政府に増加

○第11回会合をインドネシア・西ジャワ州で開催、第12回は中国・山東省臨沂市での開催が決定



第11回東アジア地方政府会合 (インドネシア・西ジャワ州開催)



第5回アジアコスモポリタン賞受賞記念奈良フォーラム

もっと良くするために

奈良県の国際交流の強化・拡大を図ります。

○友好提携地方政府への訪問団等の派遣

<派遣先>
ウズベキスタン・サマルカンド州
スイス・ベルン州
韓国・忠清南道(「大百済典」への参加等)

○友好提携地方政府からの訪問団を受入

○中国・清華大学との交流

・専門家及び学生等の交流を実施
・交換展(奈良県内開催)の実施を検討

○海外地方政府との新たな友好提携推進

○奈良県フォレスターアカデミーの学生がスイスの森林管理を学ぶため、リース林業教育センターと交流事業を実施

○NAFICとBCC(バスクカリナリーセンター)との連携協定に基づき、交流事業を実施

東アジア地方政府会合の充実発展を図るとともに、アジアコスモポリタン賞受賞記念奈良フォーラム等の開催に向けて取り組みます。

○中国・山東省臨沂市で開催される第12回東アジア地方政府会合へ奈良県代表団を派遣



臨沂市との
会合開催合意覚書締結

○会員地方政府主催の分科会の開催を支援

○アジアコスモポリタン賞受賞記念奈良フォーラムの開催に向けた準備

○日本アスペン研究所と連携し、NAFIC附属セミナーハウスでのセミナー開催を支援

令和5年度予算案 119百万円